

第21回富山県入札監視委員会の審議の概要

開催日及び場所	平成26年1月16日（木） 県庁4階大会議室		
委員 (委員数：5) (出席数：5)	委員長 広瀬 慎一（元富山県立大学短期大学部長） 委員 大石 貴之（弁護士） 委員 彼谷 環（富山国際大学子ども育成学部准教授） 委員 土開 由香（税理士） 委員 中村 和之（富山大学経済学部教授）		
次 第	1 開会 2 入札・契約手続の運用状況の報告 ① 富山県の入札・契約制度について ② 平成25年度上半期の入札・契約方式別発注工事の状況について ③ 平成25年度上半期の一位不動入札、落札率100%入札、一者入札、入札方式別落札率及び総合評価方式の試行結果について ④ 平成25年度上半期の低入札状況及び指名停止の運用状況等について 3 審議工事の抽出結果の報告 4 抽出事案の審議 5 審議結果の報告 6 閉会		
審議対象期間	平成25年度上半期（同時期に請負契約を締結した工事）		
抽出事案	10件（審議対象工事総件数：1,119件）		
一般競争入札	3億円以上	1件	（事案1）富山県立高岡工芸高等学校建築電気土木棟新築工事
	1億円以上	1件	（事案2）小矢部川流域下水道高岡砺波幹線管きょ第2工区工事
	2千万円以上	3件	（事案3）白岩川河川総合交付金護岸工工事
			（事案4）空港スポーツ緑地公園総合交付金陸上競技場舗装補修工事
			（事案5）土地改良総合整備 高波東部地区 水路整備第14工区工事
指名競争入札		4件	（事案6）一般県道上飯野入善停車場線積雪寒冷地道路特別補修消雪配管第2工区工事
			（事案7）一般国道471号道路総合交付金擁壁工工事
			（事案8）自然環境保全治山「大沼」溪間工事
			（事案9）和田川浄水場汚泥処理制御盤更新工事
随意契約		1件	（事案10）伏木富山港（新湊地区）荷役機械（NC-1号機）ラッチバッファ等修繕工事
委員からの意見及び質問並びに当該質問に対する回答	意見・質問	回 答	
	別紙のとおり	別紙のとおり	
委員会としての意見	平成25年度上半期における建設工事に係る入札・契約については、概ね適正に行われていると判断する。		

別 紙

意見・質問	回 答
<p>○一者入札の割合及び落札率について、昨年度上半期に比べ上昇しているのはなぜか。</p>	<p>昨年度の大型補正予算の影響で、国、市町村も含めて発注工事量が多いことから、技術者の不足などによる入札辞退が増加していることや資材価格が上昇していることが要因の一つではないかと推察される。</p>
<p>○事案2の工事について、参加申請業者7者のうち3者辞退しているが、辞退した業者の技術提案を評価する必要はないのではないか。</p>	<p>総合評価の技術提案については、入札後速やかに落札決定を行うため、入札前に評価を行っている。</p>
<p>○事案3の工事について、総合評価の「企業の地域性・社会性」における主たる営業所の所在地で企業の評価に差をつけるのはなぜか。</p>	<p>地元の企業は地域の地形や地質、交通などを熟知しており、工事の品質確保が期待できることから評価しているものである。</p>
<p>○事案4の工事について、契約後に増額変更をしているが、どのように変更金額を決定したのか。</p>	<p>現地を精査した結果、追加工事が必要な箇所があったため、当初設計額を見直したものに落札率を乗じて変更契約額を算定した。</p>
<p>○事案5の工事について、6者が辞退し1者のみの入札となっており、また落札率100%であったが、要因は何か。</p>	<p>入札参加の意思を示したものの、設計図書等から施工効率がよくないと判断し入札を回避したのではないかと推察される。 また、予定価格が事前公表されていること、積算歩掛及び労務資材単価が公表されていることから、積算価格が予定価格と同額になったのではないかと推察される。</p>
<p>○事案8の工事について、指名業者10者のうち、2者辞退、1者棄権となっているが、このような場合に指名業者を追加することはないのか。</p>	<p>入札者が2者以上の場合は、そのまま開札を実施し、最低価格入札者を落札者としている。入札者が1者以下の場合は、競争性が確保されないことから入札を中止し、改めて指名競争入札を実施している。</p>
<p>○事案10の工事について、製造メーカーと随意契約しているが、製造メーカー以外の業者の施工能力について確認しているか。</p>	<p>特に確認はしていないが、コンテナ専用クレーンは、製造メーカー独自の設計仕様となっており、他社では修繕できたとしても時間や手間がかかるため、製造メーカーと随意契約したものである。</p>
<p>(その他)</p>	